

県協会だより

第 50 号

令和 6 年 5 月 19 日

発行

鳥 取 県

バドミントン協会

総務本部 総務部



令和 6 年度スタートにあたり

会 長 福 浜 隆 宏

コロナ禍が明け、「さあーこれから！」という矢先での能登半島地震。重ねて4月早々には台湾地震、4月18日には愛媛・高知で震度6弱の揺れに見舞われ、改めて災害への備えを意識されている方も多いのではないのでしょうか。とりわけ地震は前兆なく、時と場を選ばず突然発生します。子どもたちとの関わりが多い協会だけに、『まさか！』と途方に暮れないよう『腹づもり』と『備え』を絶えず意識したいと思います。

さて、ご存じのように令和6年度は7月から9月にかけてパリでオリ・パラが開催されてスポーツ全般に注目が集まる年です。同時に本県では、コロナで中止を余儀なくされた「全日本社会人」が9月に鳥取市で開催されます。

4月20日（土）には実行委員会が立ち上がり、5ヶ月弱に迫った本番に向けて、準備に拍車がかかることとなります。ご関係の皆さまには、多大なご苦勞をおかけしますが、来県される全ての選手の皆さまに、「鳥取大会良かったねー」と実感していただきたい一心です。

それには、微に入り細に入り徹底した『事前の準備』が不可欠です。準備が万全だからこそ、本番では臨機応変な対応が可能となります。どんな些細な事でも結構ですから、『人任せ』にせず、どんどんご意見をいただきたいと思います。それをひとつひとつ丁寧に反映して参る所存です。皆さま1人1人の力が束になって創り上げる大会となりますよう、何とぞ御協力をお願い申し上げます。

本協会は来年70周年を迎えます。昨年度より、理事会幹部が方向性を決めるより、現場に近い所で方針決定を行っていただきたいとの思いから、「総務本部」「事業本部」「強化本部」の機能強化を図りました。9年後、2033年の『2巡目国体』を見越して考えても、『3本部』を柱にした協会幹部の世代交代が急務という背景もあるためです。

『選手ファースト』の精神を持続可能にするため、当協会づくりへの積極参画を重ねてお願い申し上げます、新年度初頭の挨拶とします。

総務本部

総務本部長 持田 隆昌

令和6年度の事業も始まり、総務本部長として2年目を迎えます。

本年度は9月に「第67回全日本社会人バドミントン選手権大会(9月6日～11日)」を、鳥取県で開催する予定となっており、皆様方へのご協力のお願いが多くなってまいりますが、よろしくお願いいたします。

さて、総務本部の活動といたしましては、毎年変わっていく協会の活動内容と規約・規程並びに予算科目との間に齟齬が生じていることを解決することが課題となっています。

至らないことが多く、すぐには解決出来ないかもしれませんが、皆様方のご意見も頂戴しながら、少しずつでも前進し、わかりやすい協会活動を目指してまいります。

ご迷惑をおかけすることもあるかと思いますが、よろしくお願いいたします。

事業本部

事業本部長 植田 睦美

令和6年3月23日開催の令和5年度第2回代議員会において令和6年度事業計画の承認をいただき、4月には令和6年度事業がスタートしました。

長く続いた新型コロナウイルス感染症禍での事業運営も令和5年5月に新型コロナウイルス感染症が5類に移行したことで、令和5年度はほぼ平常に近い形での大会運営を行うことができました。イベント、大会等への参加者も回復基調にあり、令和6年度は、より一層充実した大会となるよう引続き尽力して参ります。

令和6年度は、「第67回全日本社会人バドミントン選手権大会(9月6日～11日：鳥取市)」、「第53回全国高校選抜バドミントン大会中国地区予選大会(令和7年1月17日～19日：米子市)」と、全国大会1大会、中国大会1大会の県内開催が予定されています。大会運営に当たっては、県下全体で取り組み、充実した大会となるよう努めてまいりますので、皆様のご支援、ご協力をよろしくお願い申し上げます。

また、県内大会においても「第1回ホープ中学生バドミントン選手権大会」の開催を新たに加えております。大会運営に当たっては、より多くの方に参加いただき、楽しんでいただけるよう努めて参りたいと思いますので、選手の皆様、会員の皆様のご協力をよろしくお願い申し上げます。

◆ 3級審判員資格審査検定会の開催

令和6年度の3級審判員資格審査検定会を、以下のとおり開催します。

	東部地区	中部地区	西部地区
期日	令和6年5月26日(日)	令和6年6月15日(土)	令和6年5月19日(日)
場所	鳥取産業体育館	北栄町大栄体育館	米子市産業体育館

詳細は、県協会のホームページに掲載しておりますので、ご確認いただきますようお願いいたします。

第 23 回江原道一鳥取親善スポーツ交流に参加して

池田 久美子

12月6日（水）～10日（日）まで、鳥取県スポーツ協会主催の江原道とのスポーツ交流会に参加しました。団長の源理事長、副団長の長濱副理事長はじめ男女各5名の計12名の選手団でした。

今回の交流に参加するにあたり、私には2つの目標がありました。一つ目は半世紀のバドミントン競技歴からはや生涯スポーツとなったバドミントンを通して、同年代の方々と交流を深め、自分自身の競技に対する思いをブラッシュアップすること。2つめは、4月から始めた韓国語や韓国文化・歴史の学習を踏まえ、少しでも自分の言葉で韓国の方々とコミュニケーションを図ることでした。

2日間のバドミントン交流は、とにかく楽しくたくさんエネルギーをもらいました。まず驚いたのが、下足で体育館フロアに入っていくことと暖房がきいたアリーナでした。そして歓迎ムードの拍手や差し入れ、ウォームアップのゲームと和気あいあいとした雰囲気での交流が始まりました。心も体も温まり、体育館は寒いからと着込んでいったものをどんどん脱いでいきました。

試合形式の交流では、私より年上の選手の皆さんが、若い岡田君の打つシャトルに息を上げながら必死に食らいつく姿を見て、感動さえ覚えました。韓国の方と組んだ時は、ラリーの合間に、ハイタッチや「ファイテン！」という声をたびたび掛け合い、言葉は通じなくても「同じルールで楽しむスポーツは、万国共通！」という言葉をしみじみと感じました。また試合を始める前のトスが、日本ではジャンケンが一般的ですが、韓国では主審が投げたシャトルコックの向きで決めることを初めて知りました。



そういう違いを知ることが出来たことや交流会に参加した全ての皆さんのバドミントンに向かう姿勢から、体が動く限りバドミントンを楽しみたいという気持ちが大きくなりました。一つ目の目標達成でした！

2つ目の「自分の言葉で交流」については、とても難しかったです。米子空港で「papago」という翻訳アプリを教えてもらい、スマホに入れました。でも出来るだけ使わずにいこうと、移動のバスでは、窓の外に見える看板の字を必死で読みました。知っている言葉があったときはとてもうれしかったです。歓迎会では、韓国の高校生と話しましたが、彼女たちは翻訳アプリの扱いに慣れていて、素早く日本語の画面を見せてくれました。私は知っている韓国語と英語でJ-ポップアイドルの話をしました。彼女たちはとても礼儀正しく、日本人に対する誉め言葉もたくさん伝えてくれました。

交流前に韓国語の先生が、「韓国人は相手の年齢を気にするから、それを聞かれることがある。」と教えてもらいました。バドミントン交流の合間に、ペアの男性に週にどのくらい練習されるのか聞きたくて話しかけたら、何故か年齢の話になりました。私が準備していた韓国語で答えると、それぞれが年齢を言われましたが早くてよくわからず、結局身振り手振りになりました。そういえば、参加者名簿に韓

国側は年齢が書いてあり、日本の名簿には無かった（個人情報なので）ことも文化の違いからくるものかと思ったりしました。目上の方への接し方がしおりの注意事項にも書いてありましたが、日本人に合わせてか、あまりそういう違いを感じることはなく、みなさん親切で親しみやすく感じました。ただ、韓国の選手の方たちと話す機会があまりなかったことが少し残念でした。昼食を一緒に食べることで出来たら、同じ年代ならではの普段の生活やバドミントンとの出会い等について聞きたかったなと思います。

そして滞在中にいただいた韓国料理はどれもとても美味しく、量も半端ありませんでした。通っている韓国料理教室で作るものよりもずっとおいしかったです。香辛料の効いた肉中心の料理をたくさん食べておられるから、韓国の人たちは体格がいいのかと思いました。残すくらいの量を出すことが歓迎の意味になるようなことも聞いたので、食べきれず残したのが心苦しかったです。失礼にはならなかったら幸いです。



最後に、歓迎会や歓送会での心づくしのおもてなしや江原道やバドミントン協会からたくさんのお土産や差し入れに本当に感激し、ここまでしてもらっていいのかなと思うくらいでした。通訳の陸さんや呉さんには韓国語で何というのかたくさん教えていただきました。これからの韓国語の勉強の仕方も教えてもらい、やる気がアップしました。このような意味のある交流に参加できたことは、私にとって貴重な体験となりました。お世話してくださったスポーツ協会の役員の皆様にも心から感謝しています。これからも韓国語や韓国料理に触れ、もっと韓国について深く理解していきたいと思います。そしていつか日本でバドミントン交流があるときには、何かの形でお役に立てればと思っています。